



一九九五年度

# 早稲田大学図書館年報

## 目次

全体の動き	1
組織図	2
1995年度の主な動き 中央図書館	3
1995年度の主な動き キャンパス図書館	4-5
各委員会報告	6-7
主要行事等 来訪者	8-10
年間刊行物・印刷物	11
1995年度予算・決算	12
各種統計	13-18
人事異動等について	19-20
研修・出張、嘱任等	21-23

早稲田大学図書館は、1995年2月に「早稲田大学図書館の課題と将来構想」を発行した。この冊子は、進展する情報化のなかで早稲田大学図書館が図書館サービス（運営）の拡充の視点からいかに取り組むべきかを模索したものであった。図書館にとってこの一年はこの「課題と将来構想」に述べられた課題の解決に動きだしたスタートの年と言えよう。「各箇所利用者（主に教員）との懇談会の開催」「選書アドバイザー制度の設置」などもその一環として行われた。

また、中央図書館は開館5年目を迎えた。そこで本年は「5年目の見直し委員会」を館内に設置し、とくにサービス面における改善項目の洗い出しと可能な改善を実施した。しかし、すぐには解決不可能なことも多く、今後も継続的に改善のための努力をする必要があると考えている。

キャンパス図書館にあってはこれまで以上に利用者に対するサービスの拡充に努めた。とくに本庄分館に別置している資料や他箇所所蔵資料の提供に力が注がれた。CD-ROMのネットワーク利用も一部で開始された。

WINEによる書誌・所蔵データの一元化も進み、これまで行われてきたキャンパス図書館の遡及入力も完了した。加えて語学教育研究所がWINEに参加することになり、OCLCを利用した遡及入力を開始した。これはWINEによる書誌・所在情報一元化が図書館を超えて全学規模での一元化実現の第一歩を踏み出したものである。

この年報は、1995年度における図書館諸活動の記録である。図書館が、利用者サービス向上の視点を第一に、諸課題に取り組んでいる姿をお読み取りいただければ幸いである。